

## 2024年5月の品目別産地情勢見通しについて

品目	主要産地				入荷量 (前年同月比)	注意事項	現状の展開	今後の予測
キャベツ	愛知	茨城	群馬	鹿児島	微減	腐れ・傷み 花芽・小玉	3月で曇天雨と寒暖差が続いたことにより、生育不良（小玉・割れ）や品質劣化（傷み・腐れ）によるロスが発生。端境期とも相まり出荷量が全国的に大きく減少している。また貯蔵期での曇天雨と寒暖差が多かったことから貯蔵品の品質劣化も早く、4月取りのものは一部花芽も見受けられ、歩留まりが悪い状況が続いている。	GW以降も出荷量はすぐに増えない見通し。 九州は5/10頃、茨城は5/15頃より各地で日々出荷量が増減しながらも徐々に増える見込みだが、全国的に出回り量がまとまってくるのは5/20週以降を見込む。但し、圃場ロスが多い中ででの早切りや今後の天候によって前倒しになる可能性も有り、以降の産地リレーについても注意が必要となる。
白菜	茨城	群馬	岡山	長野	微減	小玉/軽量 虫喰い	3~4月の曇雨天、朝晩の寒暖差の影響を受けて、玉肥大は小玉傾向。 桜の開花が遅れたが、気温上昇すると見込み被覆を早く外した圃場は成長点がやられ、生育が停滞。春作の市場向け初荷は例年通りの時期から出荷開始ともなったが、3月高値の影響を受けて若切りを行い、その分進みが早い圃場も多く散見されるため数量は多くない状況が続いている。	4月内から春白菜に切り替わったが、出荷量は依然例年より少ない状況が続く見込み。 また、内部結球具合が緩いため歩留まり減少にも繋がり、加工ユーザーからは一定の引き合いが継続しているため例年より高値が続く推移。 5月内週ごとに数量増減ありながらも茨城県産の出荷が続くが、切上りがやや早まる可能性も有。後続の長野県産は、3月に数回降雪あり定植作業自体が遅れたため、出荷開始が例年よりは遅い開始となる見込み。今後気温上昇に伴い、生育回復（生育やや前進）も見込まれるが、産地・作切り替えに向けて注意が必要となる。
トマト	愛知	熊本	長崎	茨城	増	玉割れ/擦り果 灰色かび病	3月まで気温が低かったため出荷数量は伸びなかったが、4月に入り中旬以降、徐々に出荷数量は増加に転じている。気温上昇してきており、九州産地を中心に出荷数量は増。玉流れも3月はMS中心となっていたが、徐々にML中心と小玉→大玉に転じている。	現状、圃場でも着果は十分なため、GWを境に出荷数量は一気に増え、出荷最盛を迎えていく見込み。今後気温上昇に伴い出荷数量も増えるが、軟化等の品質面で注意が必要となる。
ミニトマト	愛知	熊本	宮崎		増	玉割れ/カビ 灰色かび病	産地は熊本県産、栃木県産や千葉県産などの関東近在になっている。M・L規格での出荷が中心になっているため、玉数も伸びている。GWに出荷のピークを迎えるため更に出荷量は伸びる見込み。3~4月は出荷量は多くなかったため、量販店の引き合いは4月下旬~5月にかけて強くなる見込み。	出荷数量はGWを境に増えていく見込みであるが、九州管内3月曇雨天の影響を受けて、玉サイズはやや例年より小玉傾向で大量発生が若干少く見込む。気温上昇に伴い、カビ/裂玉等の発生も高まる可能性もあり、今後の品質にも注意が必要。
胡瓜	宮崎	群馬	埼玉		増	赤芯 (低温障害)	天候不順が続いているため昨年と比べると出荷量は少ない見通し。出荷量は前年同月と比較して1~2割程度減少しており、背景には3月後半の天候不順が影響している。天候が回復すれば出荷量は前年と同程度には戻る。 5月~6月は出荷量がピークとなるため、現在と比較して出荷量は増加する。	九州産地に加えて、関東各産地の出荷も増えてきており、5月以降更に出荷数量は増量していく見込み。関東産地の出荷も始まったことにより、上物~下物まで全体的に出回り増を見込む。今後東北管内も雪解けが早く大きな天候被害は見受けられなかったため、順調な生育を見込む。
なす (長茄子・短茄子)	群馬	高知	熊本	福岡	短茄子 並 長茄子 並	とろけ	短茄子は入荷量に波があり数量が少ない状態が長く続いた。準備に関しては例年より高止まりの時期が長い状態が続いている。 長茄子は九州地方の継続的な雨天の影響で少量入荷が多く続いている。4月下旬に一時的な出荷量が増加したが、例年と比較すると出荷量は少ない模様。	短茄子は群馬県産の出荷数が徐々に増加傾向の見込みがあるものの、高知県産の出荷が落ち着くため、例年より全体の出荷数は減少傾向の見込み。 長茄子は5月上旬まで出荷数量は増加するが、その後なり疲れになる可能性が高いため5月中旬以降、一次的な出荷数量減になる見込み。
ピーマン	宮崎	鹿児島	高知	茨城	並	赤果 割れ	4月までは3月の曇雨天影響もあり、全体的に数量が例年より少ない状況が続いた。 茨城県産は若干の生育遅れが見られたため、宮崎県産中心の出荷が続き、相場も例年より顕著に高値傾向な展開が続いた。	茨城県産は産地側の作付面積増加により、GW明けから今後も出荷量増加の見通し。宮崎県産も出荷量は増加の見通し。しかし急な降雨と気温上昇により、赤枯れや焼けといった品質不良も増加する可能性あり。量販店側は高値が継続した影響で引き合いはそれほど強くない。
レタス類	長野	群馬	茨城		微増	ピンクリブ	5月上旬で茨城・兵庫県産のラップレタスが概ね終了予定。茨城県産については、2月高温の影響もあり、トンネル作の作付けを減らしている。4月下旬に概ねベタ掛けに作が切り替わるが、3月以降の冷え込みが影響して、生育遅れが生じており玉サイズも14-16玉出荷の割合が多い。群馬県産の向出作（前橋辺り）については、4月中旬より出荷開始。出荷開始は例年通りとなっている。増量ペースについては1週間~10日程度の遅れ。4月下旬より長野県産（山梨県産含む）が出荷始まってきている。	茨城県産は徐々に出荷量落ち込むが、群馬県産・長野県産はGWを明けるとピークを控えている。十分な出回りとなる。5月下旬には茨城県産が切上るを迎える事に加えて、断続的な降雨により群馬県産を中心に作付け出来ない事から、端境生じる可能性有。尚、長野県産のレタスは他品目（白菜・ブロッコリー）へ転作しており、結球面積は微減。非結球（特にサニー）は増量となっている。岩手県産は6月上旬を目途、北海道産は6月中旬を目途に出荷始まる予定。
大根	千葉	神奈川	鹿児島		減	内部障害	鹿児島は3月の天候不良により播種できていない圃場もあり、昨年より2~3週間程度（5月中下旬→4月下旬~5月上旬）早く切上がりととなる。 千葉県産も3月下旬の低温の影響で、出荷量まとまらず引き合いは強い状況。	千葉県内いずれの産地も5/13週より数量回復の見込み。6月以降、後続の青森県産も生育やや遅れ気味であり、5月下旬~6月中旬は出回り少ない見通し。
長ネギ	千葉	埼玉	茨城		並	葉枯	4月秋冬作は切り上がっており、春ねぎ中心の出荷となっている。茨城産は春ねぎに加え初夏ねぎが入荷開始となり、総体量は微増となっている。需要期は過ぎているものの、他野菜の高値から量販店の荷動きがあり、販売は堅調な推移となった。	今後は、関東各県産は、曇天・降雨の予報から収穫作業が停滞し出荷量が減少する見通しで、千葉産は田植えの作業もあることから落ち着いた出荷となる見通し。初夏ねぎについては、GW以降に増量の見通し。春ねぎから夏ねぎへの大きな切り替えは5月13日の週から始まる見込み。連休にかけて軟調な展開となる品目が多い中、ねぎについては総入荷量不足と休作を行う産地がほばないことから堅調な販売となる見込み。
法蓮草	群馬	茨城	埼玉		増	とろけ	生育問題無く、出荷量は潤沢。	5月後半~6月に掛けては高冷地に切り替わる為、数量減少となる見込み。
小松菜					増		生育問題無く、出荷量は潤沢。	茨城県産の生育問題無く、埼玉県産の露地作も出荷が始まる為、出荷潤沢の見込み。
青梗菜					並		生育問題無く、出荷量は潤沢。	茨城県産の生育問題無く、出荷量は並の見込み。
水菜					増		生育問題無く、出荷量は潤沢。	茨城県産の生育問題無く、埼玉県産の露地作も出荷が始まる為、出荷潤沢の見込み。
ニラ	茨城	栃木	北海道		増	黄萎 枯れ とろけ	関東産地では、気温高で露地作が伸び、想定より早めに収穫を実施している。ハウス作も成長が早く、一時的に出荷量は増加している。東北や北海道産地の出荷も被っているため全体的に出荷量は多い。	5月下旬は、1番刈り・2番刈りの端境期となるため出荷量は落ち着いてくるが、晴間が続き生育順調だと端境が発生することはない想定。また、6月以降は梅雨の影響で品質低下が懸念され、例年圃場廃棄もあることから母数が減ってくる想定となっている。
馬鈴薯	長崎	鹿児島	静岡		並		九州は離島が4月下旬で概ね終了し、鹿児島本土、長崎県産中心の出荷となる。直近は降雨により収穫遅れしており引き合いは強いが、鹿児島、長崎いずれも大玉傾向。	鹿児島、長崎県産の出荷に加え5月下旬より静岡県産が開始となる。面積は横ばい~微減であるが現在のところ病害発生等なく順調。
玉ねぎ	北海道	佐賀	兵庫	愛知	並	へと病	佐賀では3月末までは生育順調だったものの早生品種の出荷が増える4月2週目頃より雨が続き、収穫が滞ったことで圃場には2L、3Lサイズなど大玉の玉葱が散見された。 雨が長く病気が出やすい気候であったが、現時点ではへと病等の目立った発生はない。	佐賀は雨の影響が続きGW中までは昨年の7割程度の出荷となる見込みだが、GW明けには出荷最盛期を迎え2L比率も高まる予測。 続く淡路も生育は順調。昨年が大豊作であったため昨対比では減だが、平年作となる作柄で現在はL中心の生育となっている。 佐賀、淡路ともにへと病を抑えられているが今後も注意が必要。
人参	徳島	千葉	熊本		並		4月の主要産地である徳島は、面積自体は微減であるものの3月の低温および4月以降も降雨が続き、前年の8割程度の出荷量。また、品質低下に伴い圃場廃棄も散見される。	九州各産地も3月の低温で生育遅れがあったが、4月下旬より徐々に出荷開始。GW明けには現在より出荷量回復の見込みだが、大幅な増量とはならない見通し。